《カトリック大和高田教会　お知らせ》

2024 年 6 月 23 日

典礼暦	日　時　など
年間第１２主日 (聖ペトロ使徒座への献金)	6月23日（日）ミサ　10：30 6月24日（月）ミサ　8：00 6月27日（木）ミサ　10：30 6月29日（土）ミサ　8：00
年間第１３主日	6月30日（日）ミサ　10：30 7月 1日（月）ミサ　8：00 7月 4日（木）ミサ　10：30 7月 6日（土）ミサ　8：00

【京都司教区】

◎大塚喜直司教　霊名パウロのミサ

場所：カトリック河原町教会

日時：6 月 26 日（水）10 時～

◎第二バチカン公会議を学ぶ～シノドスの歩みのために～

【オンライン講座】＆【対面分かち合い】

現在の教会のあゆみの原点となっている第二バチカン公会議の公文書に触れ、シノドスの理解を深めます。

期間：　2024 年 7 月～2025 年 4 月

詳細は、ホール掲示板をご覧下さい。

【奈良ブロック】

●「聖書を学ぶ会」講演会(全４回)　詳細は掲示板をご覧下さい。

第 4 回 日時:7 月 6 日(土)11 時, 於: 奈良教会, 講師:英隆一朗神父

※当日、参加・申込も可能です。

●2024 年クリスマス・チャペルコンサート合唱団の練習について

練習日:6 月 23 日、7 月 7 日(日)　14 時～、場所：大和八木教会

【大和高田教会】

◎本日、ミサ後に扇風機の準備を行います。

みなさまのご協力をお願いします。

◎典礼部のみなさまへ（**下線部を訂正しました**）

<u>6 月 29 日(土)、9 時 30 分から香部屋の片付けを行います。</u>

ご協力をお願いします。

◎国際協力委員会より。

今年も船員司牧のお手伝いとして、12 月に神戸港に入港する船員さんに手編みの帽子とマフラーを届けたいと思っております。

今回から帽子の形が変わります。

帽子は仕事中の事故から頭を守るためにヘルメットの下に被るそうです。見本は国際協力委員が持っていますのでご覧ください。

今まで通り日本の寒さから身を守るための温かい帽子やマフラーも大歓迎です。

みなさまのご協力をお願いいたします。

◎木曜日ミサ後の　Sr. ローマの聖書の分かち合いについて

Sr. ローマの帰国が遅れます。

7 月 18 日（木）のミサ後から再開します。

■教会掃除当番

7 月 7 日(日)ミサ後：奉仕日：<u>全員</u>

<u>本日の聖歌</u>

入祭	典	３８８ ガリラヤの風	奉納	典	９８ しあわせな人
答唱		聖書と典礼	拝領	典	１２８ 主を仰ぎ見て
ｱﾚﾙﾔ唱		聖書と典礼	閉祭	平	５２ 主に愛されて

【平：「平和を祈ろう」】

６月２３日　年間第１２主日　マルコ４章３５～４１節　嵐の先の神の国

今日の福音は先週に続く箇所です。イエスは弟子たちと湖を対岸に渡ることになりました。その際の出来事です。この話はマタイとルカにも記されていますが、ヨハネでも湖の天候が荒れる話が出てきます（６章１６～２１節)。こちらはイエスが湖面を歩いて来られ、船に乗り込まれると嵐が収まるというお話です。

ガリラヤ湖はそんなに大きい湖ではありません。けれどもやはり荒れた天気のときには舟で渡るのも困難だったことでしょう。あのおだやかに見える琵琶湖でも大自然が牙をむくことがあります。三高ボート部の１１人が遭難した悲劇は「琵琶湖哀歌」に歌い継がれています。ガリラヤ湖上の弟子たちも、突然の天候の悪化に不安でいっぱいだったのではないでしょうか。イエスが起きて嵐を静められたとき、彼らは安心するとともに、イエスが神からの力をいただく存在であったことを心に刻んだことでしょう。
弟子たちの恐れは嵐だけでなく、対岸に渡るという不安もあったのではないでしょうか。ヨハネの福音書ではカファルナウムですが、マルコ５章に書かれている目的地は「ゲラサ人の地方」でした。いずれも異邦人、異教徒の住む地方と言われています。嵐はそのようなところに向かう彼らの心を表していたのかもしれません。いずれにしても、イエスは心の嵐を静め、平安を与えてくださる方であるということです。
わたしたちの心の不安とは何でしょうか。病気や体調、人間関係、死への恐れなどの個人的なものもありますが、現代においてはウクライナやガザの戦争、諸物価の高騰、利益優先の社会や少子化など、心配の種には事欠かない状況です。そんなとき、わたしたちはどうすればよいのでしょうか。
奈良市の徳融寺というお寺に面白い石碑があります。「軍馬いななき国滅ぶ…」という碑文の下に建立者の吉村長慶さんが寝ている釈迦とイエスを揺り起こしているさまが彫られています。これが奉納されたのが昭和１２年、日本が軍国主義へと急速に歩みを進めていった時代です。長慶さんはのちに宇宙教を創設するなど奇人ではありましたが、平和主義者でした。「お釈迦様、イエス様、早く起きてこの世を救ってください」と呼びかける長慶さんの姿は今日の福音の弟子たちの姿と重なりますね。なお、この石碑は戦時中、反戦的であるとして、官憲の命令で扉をつけて隠されたそうです。

イエスは弟子たちに「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか」と言われます。叱責される言葉のように思いますが、裏返せば「信じるならば怖がることはない」という意味だと言えるでしょう。わたしたちにとっての心の嵐は自分のこと、社会全体のことなどさまざまですが、怖がりながらもイエスが何とかしてくださることを心の片隅に持っておくことが必要です。先週の福音との関連で考えると、イエスは陰で神の国の木を大きく育てておられます。嵐の先の対岸は神の国のことだといえるかもしれません。　　（柳本神父）